

## 第18回 西日本国際財団アジア貢献賞審査委員会ノミネート団体・個人一覧

### ■ NPO 法人ヒーリングファミリー財団 国際協力・障がい者支援センター 愛のかけはし

理事長：大垣内 勇氏  
設立：2008年  
活動地域：タイ・チェンマイ、佐賀県多久市

日本で使用しなくなった車いすを障がい者施設から譲り受け、小学校や放課後児童クラブ、福祉作業所等で磨き上げてもらい年2回実施するスタディツアーでタイに届けている。また、タイでの介護技術講習、タイの障がい者が製作したコースターの売上を東日本大震災被災者に寄付する等交流が広がっている。

### ■ NPO 法人愛未来

理事長：竹下 敦子氏  
設立：2008年  
活動地域：スリランカ、パラオ、佐賀県佐賀市

代表の竹下氏が25歳の時に青年海外派遣事業に参加した際、インドの貧困に衝撃を受け、アジアの国々の貧しい人たちの役に立ちたいと活動を開始。スリランカでの、乳製品加工販売を進める「ミルクの里作り」、農産物直売所作りなどの産業支援のほか、パラオの農村女性グループ支援をはじめ、女性の経済的な自立支援等の活動を行っている。

### ■ RK 清水長崎財団

会長：清水 勝利氏  
設立：2011年  
活動地域：マニラ、長崎県長崎市

株式会社清水商会の代表として、日比間で45年以上中古船の輸出を行う中で、自身の信念である『百年国家の計は教育にあり』を実践し、第二の祖国であるフィリピンに恩返しをしたいとの思いで同国の教育大臣に面会。教育物資の不足を知り、長崎県内で使用されなくなった机椅子の寄贈や小学校の建設支援を行っている。

### ■ いっしょき学校を作りもんそ会

代表：弓場 秋信氏  
設立：1997年  
活動地域：カンボジア、鹿児島県鹿児島市

貿易業を営む弓場氏が、アジアで学校教育を満足に受けられない子どもたちのために学校建設を依頼され、1997年、父の遺産をもとに現地と鹿児島が共に学校建設を進めようと会を発足させたのがきっかけ。2地区で校舎、図書館、トイレ、職員室等を建設。開発村ポイペイ地区で支援要請を受け11年間現地ニーズに応え活動を継続している。

### ■ 認定NPO 法人車椅子レクダンス普及会

理事長：黒木 実馬氏  
設立：1995年  
活動地域：韓国、福岡県久留米市

健常者と障がい者が同じようにダンスを楽しむことができる車椅子レクダンスを自ら考案。全国に支部を設立してインストラクターの養成を行っている。2001年からは、韓国でも活動を始め、今までに韓国の若手指導者約60人、学生約300人をインストラクターとして育成するなど韓国の福祉スポーツ普及や日韓青少年の草の根支援にも尽力している。

### ■ 国際交流協会 西端塾

代表：岩波 利英氏  
設立：1997年  
活動地域：タイ、長崎県佐世保市

途上国の貧困の実情を知り、地域や国際社会に貢献しようと同会を設立。設立時から空き缶のプルタブを収集・換金を行い、バザーの収益金とともに義足が買えない子どもたちのためタイの義肢制作財団での義足制作、孤児院、山岳部族の水道や発電機等ライフライン設置等の支援を行っている。

### ■ NPO 法人ともに生きる街ふくおかの会

代表理事：吉谷 武志氏  
設立：2001年  
活動地域：福岡県福岡市

吉谷氏が九州大学の教員として地域や学校の外国人支援に長年取り組む中、増加する多文化住民の教育や生活課題の解決、日本人住民との交流について取組みを始め、2001年から多文化共生に関する勉強会を100回以上開催。また、外国にルーツを持つ子どもたちのための高校進学など就学・進路相談会を多言語にて開催。近年は行政書士の協力も得て大学進学、日本在住の問題などの相談も受けている。

※上記7団体は第18回アジア貢献賞に推薦された20団体・個人の中から候補者選考委員会（第1次審査）にて審査委員会の審査対象としてノミネートされた先です。

（五十音順）

## 第12回 西日本国際財団アジアKids大賞審査委員会ノミネート団体・個人一覧

### ■ 一般社団法人北九州青年会議所

理事長：棟久 裕文氏  
活動開始：1970年  
活動地域：台湾・台北市、福岡県北九州市

台北市国際青年商會(台北JC)との姉妹締結初年度にIFP(インターナショナルファミリープロジェクト)を開始。両国間のホームステイを1970年から47年間途絶えることなく行っており、これまでに同プロジェクトの参加者は1,000人を超えている。

### ■ 宮古島市立下地中学校

代表：久高 三彦氏  
活動開始：1999年  
活動地域：台湾・台中市、沖縄県宮古島市

1999年、台湾トライアスロン選手が同校に宿泊したことがきっかけとなり、17年間で160人の生徒が台湾を、漢口国民中學の生徒95人が宮古島を訪問。文部省プロジェクトによるサポートも受け、IT・スカイプを駆使してホームステイ実施前から家族との交流を深めている。

（第1回アジアKids大賞受賞）

### ■ 佐賀市立新栄小学校

校長：古賀 善充氏  
活動開始：2002年  
活動地域：韓国・釜山広域市、佐賀県佐賀市

創立30周年記念事業として、同市の姉妹都市である韓国釜山広域市のトヒョン初等学校から児童のホームステイの受入れを行う。翌年、トヒョン初等学校からの招待で21名の児童が釜山広域市を訪問。以来、隔年の相互訪問を15年間にわたり継続。これまで両校併せおよそ200人の子どもたちがホームステイを通して国際交流を図っている。

### ■ 太宰府市立太宰府西小学校

校長：古賀 淳子氏  
活動開始：1980年  
活動地域：韓国・扶余郡、福岡県太宰府市

平成元年に当時のPTA会長の橋渡しによる韓国扶余郡百濟初等学校との交流をきっかけに、同校と姉妹校を締結。相互訪問を中心とした交流を継続しており、外国語活動の一部に韓国語を取り入れている。

（第1回アジアKids大賞受賞）

※上記4団体は第12回アジアKids大賞に推薦された10団体・個人の中から候補者選考委員会（第1次審査）にて審査委員会の審査対象としてノミネートされた先です。

（五十音順）